

第19号  
平成6年  
1994



会 報

# にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

## 目 次

ご挨拶	同窓会 会長 寺田 郁雄	1
ご挨拶	前同窓会会長 清家 寛	2
高校教育改革	学 校 長 岡崎 紀秋	2
学校近況	教 頭 小松 陽一	4
進路状況について	進路指導部長 西川 哲夫	5
大阪支部だより 雑記(思いつくままに)	宮本恵美子	6
関東支部だより 上海見てある記	大崎 鼎	6
京滋支部だより	橋田 昌和	8
高知支部だより	森 久敬	9
窪川支部だより 手造りでビールが出来る	川添 泉	9
開校記念行事	事 務 局	10
はばたけ太陽の仲間たち	松本 郁夫	10
クラブ紹介 美術部	顧問 渡辺 哲哉	12
本部役員名簿		13
平成5年度決算並びに平成6年度予算		14
終身会費納入者名(1年間)平成5年10月1日～平成6年9月30日		15
会報届先不明者		16
校 歌		
各種証明書の発行について		
編集後記		

### 表紙説明

#### モニュメント設立

須崎工業高等学校のイメージにふさわしいモニュメントとして校章にもありますイカリを正門横に今治造船㈱の御好意で寄贈いただき、平成5年11月4日に除幕式を行ないました。



# ご挨拶

昭和21年機械科一種卒

同窓会会長 寺田郁雄

同窓会の皆さん御元気で、御伺い申し上げます。

日頃は同窓会活動に御協力をいただき誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

扱て本年五月の本部理事会で役員改選が行われ、不肖私と同窓会長の大役を拝命いたしました。

申すまでもなく、浅学非才の非力な者でございますが、つつしんで御受けいたしました。

茲に就任の御挨拶を申し上げますと共に、御指導御鞭撻の程よろしく御願ひ申し上げる次第であります。

会員の皆様方御案内のとおり、我が国の経済は低迷している現在、同窓会本部といたしまして、とりまく諸般の事情は誠にきびしい状況であり、その上に、母校といたしましては、来年度より電気料が一クラス減少するなど、時代の趨勢とは申せ誠に憂慮すべき事態であります。

同窓会といたしましては、受ける影響は大きいものがありますが、会員の皆様方の御協力をいただきまして、母校並びに同窓会発展のため微力ではございますが、頑張つて参る所存でございますので、格段の御協力を御願ひ申し上げます。

いまや母校は創立五十周年の大きな節目も過ぎ、

いよいよ地域社会の期待に沿える工業高等学校として躍進しておるところであり、御同慶のかぎりでありませう。

これは、ひとえに歴代校長先生並びに諸先生方の並々な御努力の賜物であり、茲に深甚なる敬意を表しますと共に、衷心より御礼申し上げまする次第であります。

これからの同窓会の運営はほんとに厳しいものがあろうかと予想されますが、めげることなく、先づは会員の親和を計ることが先決であり、より一層組織の拡充をはかりながら友情の輪を広げて参らなければなりません。

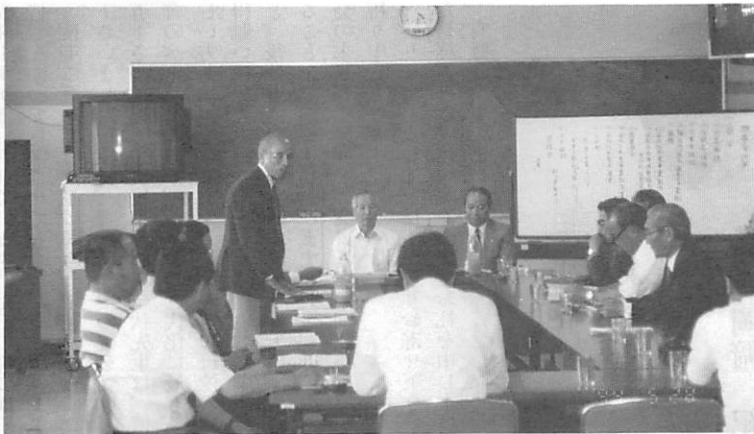
そのためには、各支部の支部長並びに、支部役員の方々に期待するところが大きく、より一層の御努力をいたいただき、活発な支部活動を御願ひ申し上げます。

本会は、会員の親和と母校の隆盛を図るを目的としておりますが、いまや同窓会員は八千余名の大世帯であり、本会の目的達成のためには、会員の皆様方の絶大なる御協力なくしては、到底可能なものではありません。

会員の皆様方には、どうかこの点を御理解いただきまして、より一層の御協力を御願ひ申し上げます。

第であります。

終りに臨み、会員の皆様方には内外ともに誠に厳しき折柄、健康に留意され、それぞれの分野で更なる御発展をされますよう御祈り申し上げます。



(平成6年度理事会 5月28日須工高会議室)

# ご挨拶



昭和18年機械二種卒  
前同窓会長  
清家 寛

会員の皆様には、お変わりございませんか、お伺い申し上げます。

今年、五月二十八日本部理事會に於きまして、會長を辞任させてもらいました。誠に不束な者でございましたが、長年に亘り皆様方のご支援、ご協力をいただき無事大任を務めさせていただきました。有難うございました。心からお礼申し上げます。

新同窓會長には、寺田郁雄氏が出席理事全員の賛同をもって選任されました。寺田郁雄氏は、ご承知の通り昭和二十一年機械卒、須崎市で建材業を営んでおられ、識見・人格共にすぐれた大先輩の方でございます。どうかこれまで同様温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以前のことにりますが、私が會長に就任した当時、母校は創立三十周年の慶事を経て、大発展を遂げられ、大間の新校舎へ移転し、校長先生を中心に諸先生方、学生諸君等には輝かしい希望をもって、勉學に取り組んでおられるときでした。

そして、全国各地に結成されておりました同窓會も、母校の発展に添うかの如く、これから一層活発に活動しようという氣運にありました。また会員の多い職域では、須工會が誕生し、會員相互の親睦が計られる方向に進展してまいりました。

同窓會活動が、全国的にこのような氣運にありま

したので、本部事務局も忙しくなってきました。本部事務局は、事務局長を中心に、同窓の先生方が仕事を分担して事業を推進して下さいました。事務局の先生方のご労苦は大変なものであったと拝察申し上げます。

同窓會は、本部並に支部役員の方々、職域及び地域の世話役の方々、並に有志の方々との暖かいご支援ご協力と熱心なご活躍に併せて、母校校長先生並に諸先生方の御指導、ご協力によりまして大きく発展することができました。

一昨年は、母校創立五十周年記念式典、並に祝賀會、それに併せての数々の記念事業には、同窓會としても大いに貢献することが出来ましたことは、同窓會役員の方々、並に會員皆様方の長年に亘る、積極的なご協力の賜物でございます。心から深く感謝とお礼を申し上げます。

母校は、創立五十周年の慶事を契機に、生徒諸君の自主的な發意のもと、先生方のご指導を得て、素晴らしい生徒憲章を定められました。

この生徒憲章は、平成四年十二月発行の會報「にしきうら」一七号の表紙にあります通り、母校玄関前に建立された記念碑に刻まれております。

そして後輩の生徒諸君は、その冒頭にあります、次の言葉を指針として日々努力を重ねておられます。

高校生活は、私達の人生で最も多感かつ、二度と体験できない時期であることを深く自覚しこの学び舎が、真に人生の礎となるようこの憲章を指針として努力を重ねることを誓い、こゝに生徒憲章を定めます。

また母校は、各科の内容充実に共に校舎内外の、改装工事が施行されています。完工の晩には、是非皆さん揃って見学させてもらいたいと思います。

長年に亘り、母校並に同窓會發展のためにご尽力下さいました前校長、森岡清先生の後を受け、ご指導下さっています現校長、岡崎紀秋先生は、情報教育のベテランの方で、工業教育近代化に最もふさわしい方と承っております。これからの母校の發展に得難い校長先生をお迎えし、諸先生方の御指導のもと、後輩生徒諸君が立派に成長し、大いに活躍されることをご期待申し上げますと共に、母校並に同窓會の末永いご發展と、會員皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げます。

終りに当りまして、長年に亘りお寄せ下さいました皆様方のご厚情に深く感謝とお礼を申し上げます。有難うございました。



高校教育 改革  
学校長 岡崎 紀秋

今年はいへんな猛暑に加え、水不足が続きました。同窓會の皆様におかれましても、少なからぬ影響を受けられた方がおいてになるのではないのでしょうか。

本年度の本部役員會で、清家寛會長さんがお引き

になり、新しく寺田郁雄さんが会長にられました。清家さんが会長にられたのは、本会報によると昭和五十二年（一九七七年）本会報第二号が発刊された年です。以来十七年間の長きにわたり同窓会発展のためにご尽力をいただきました。学校としてもたいへんお世話になりました。学校を代表しまして心から感謝し、お礼を申し上げます。

今年からは寺田新会長のもとで同窓会がますます発展されることを願ってやみません。

残念なことです。生徒数減の影響を受け、来年度より電気料がクラス減となりました。生徒減は今後もずっと続きます。学校の魅力化をより一層進め、志願者増を目指す必要があります。

今年には造船科創立五十周年の年になります。造船科の同窓生有志の方々にて実行委員会を組織され、記念事業の計画をされております。学校で行う記念行事についてもご相談をいただき、準備が順調にすすんでいます。

今、学校では校舎の大規模改造工事が進行しております。一昨年、昨年とかけて外部の改造工事が終了し、今年には南校舎の内部改造工事をしております。札幌から現在の和佐田の地に移転したのは創立三十周年に当たる昭和四十七年でした。以来二十三年が経ち傷みがいよいよひどくなっています。来年は引き続き本館等の内部改造をお願いしております。この工事が終了すれば、移転新築の時以上に美しく機能的な校舎がよみがえることとなります。機会があれば母校をお訪ねください。

### 高校教育改革

前号では教育課程の改訂に伴う工業高校の教育内

容の変化について書かせていただきました。続いて固い話で申し訳ありませんが、現在、進行している高校教育改革について書かせていただきます。

文部省の音頭で高校教育の改革が全国的に進められております。従来、高校は普通科と職業学科（専門科）の二つに大きく分かれておりましたが、新しく総合学科が加わりました。これから高等学校は普通科、総合学科、職業学科の三つになることになりました。

総合学科には二つの特色があります。

第一の特色は、高校に入學してから将来の自分の進路について学習することができるようになっていることです。このために自分の進路を考えるための科目「産業社会と人間」を履修します。

第二の特色は、多くの選択科目が開設されることです。生徒は自分の興味や関心に応じて学ぶ科目を選択できることになります。

総合学科で生徒が学ぶ科目は、高等学校での必修科目、総合学科の原則履修科目、総合選択科目、自由選択科目の四分野があります。

原則履修科目には前述の「産業社会と人間」と情報に関する基礎的科目及び「課題研究」があります。また、総合選択科目には群を設け、群の種類としては、例えば、情報系列、伝統技術系列、工業管理系列、流通管理系列、国際協力系列、地域振興系列、海洋資源系列、生物生産系列、福祉サービス系列、芸術系列、生活文化系列、環境科学系列、体育・保健系列等があり、それぞれに科目を設けます。

生徒は、総合選択科目と自由選択科目の中から自分の学びたい科目を大幅に選択することができ、時

間割は極端な場合には生徒一人一人て違ったものになります。

このように生徒の自主性を積極的に受入れ伸ばす、生徒の個性を重視する総合学科は、義務教育における「新しい学力観」の延長上にあります。新しい学力観は、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」を基本とし、何よりも子供の学習への「関心・意欲・態度」という情意面の力を重視し、それを学力と捉えます。従来の知識・技術の重視はその次の位置付けとなりました。私自身は古い人間ですし、工業高校では知識・技術を生徒に教えこむ、詰め込むことが重要とも考えています。

高知県では総合学科の設置はまだ表面化しておりませんが、全国的には六年度七校が設置され、さらに七年度には倍増する模様です。

総合学科の設置は職業高校へマイナスの影響が予想されます。このためだけとは言えませんが、文部省は職業高校の魅力化についていくつかの方策を打ち出しています。

本校では生徒減の影響を受け、前記しましたように、来年度より電気料がクラス減になりました。このことと併せて今後、慎重に対応していく必要があると考えています。



# 学校近況



教頭 小松 陽一

同窓会員の皆様、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

生徒は、服装、朝夕の挨拶もだんだんに良くなり学習にクラブ活動に頑張っております。毎年、中学校の先生方との協議会や、学校開放講座、外部講師の講演等が開催されていますが、「工業の生徒さんは、気持ち良い挨拶がごく自然にできる。感心しました。」また、講演等での集会態度のすばらしさをほめていただき、うれしく思っています。

本校では遅早防止のために、十分前登校指導を実施し、一ケ年間の皆勤、精勤賞の表彰をしております。平成四・五年度の受賞率は、五十二％、五十七％と年々、良くなっています。また、各種資格試験（ガス溶接・計算技術・危険物取扱者・製図検定・第二種・第一種電気工事士等）にも多くの生徒が挑戦し、その成果はすばらしいものがあります。本年度は、特に、第二種電気工事士に五十名合格し、第一種電気工事士試験にむかって頑張っています。合格者数は、県下一だと思っています。諸先生方の早朝、放課後の補習、この補習に生徒達も良く頑張りました。

中学校卒業者の減少は、全国的な傾向にあります。が、本校におきましても、生徒減少への対応に苦慮しているところです。平成六年九月現在の在籍生徒

数は、五七七名（女子二名）、定員に対し、一四三名の減少となっています。一年生の在籍数は、M科六二名（八〇名）、S科三三名（四〇名）、C科三三名（四〇名）、E科四三名（八〇名）と、このまま減少傾向が続くと学級減という大変な心配が予想されていましたが、平成七年度より電気科が一学級となります。この状況は、工業だけの課題ではありません。

施設面では、平成三・四年度に、南舎・本館・専門棟の大規模外装工事が完了しましたが、平成六・七年度は、大規模内装改造工事に着手し、八月には南舎二・三階の教室完成、この改造工事に伴い、E科職員室を専門棟から南舎二階西へ、M科職員室を機械工場東より南舎一階へ移転されます。十二月には南舎と本館の二階西通路へ、昇降所を設置し、全校舎上履を計画しています。（二学期より、南舎一・三階は上履を実施しています）

人事につきましては、山脇正照事務長、岡林一馬先生が停年退職されました。山脇事務長は、本校で七年間事務長として勤務され、その間、造船科実習棟、家庭科実習室の新築改修工事、本館・南舎・専門棟の外部改造工事に手腕を発揮されました。電気科の岡林先生は、昭和四十四年より二十五年間、旧校舎・新校舎と勤務され、その間、電気科長、ホーム主任等にご尽力されるとともに、本校をこよなく愛されお世話していただきました。お二人のこれまでのご苦労に深く感謝申しあげます。

他に、七人の諸先生方が転任されました。諸先生方のご活躍をお祈り申し上げます。

## （教職員の異動）

### 〈転出〉

- 池添 春人（国語） 岡豊高
- 浜田 まや（社会） 梶原
- 伊藤 正孝（数学） 窪川高
- 上岡 正紀（数学） 大方商高
- 谷口 正則（機械） 高知工高
- 岡本 雅道（化工） 高知工高
- 前田 朋子（家庭） 佐川高

### 〈転入〉

- 片岡 啓輔（事務長） 窪川高
- 仲村 加恵（国語） 中村高
- 桑原 智子（国語） 窪川高
- 南 学（数学） 丸の内高
- 林 幸男（機械） 高知東工高
- 磯元 幸弘（化工） 安芸工高
- 矢野 元朗（電気） 高知東工高
- 小笠原理佳（教・理） 期限付講師
- 国澤 千砂（英語） 期限付講師
- 小松 靖（保体） 期限付講師
- 渡辺 哲哉（美術） 期限付講師
- 古谷 和子（英語） 時間講師
- 市川 和広（社会） 時間講師
- 梅原 富子（家庭） 時間講師

今年も多くの新進の教職員をお迎えしました。心を新たに努力しておりますので、皆様のご指導、ご援助をよろしくお願い申し上げます。



# 進路状況について

進路指導部長

西川 哲夫

卒業生の皆様、常々後輩の就職につきましては御指導御助言を頂きまして心よりお礼申し上げます。

バブル経済の崩壊により不況が長びく中で、昨年度3月末現在、高知県内の卒業予定者で就職進路が内定しないまま卒業した生徒が89名と集計され、求職難の時代になりましたが、おかげ様で本校は全員の卒業生が内定、卒業式を迎える事が出来ました。

景気が好転しない中で世界各国からは個人消費の拡大と貿易黒字の解消を理由に市場開放を要求されています。しかし、1ドル98円台と云う急激な円高による生産調整とリストラ対策で雇用拡大は期待できないまま、昨年の冷夏、長雨による被害から一転して本年度は少雨による異常渇水、各地での観測史上以来の最高気温の記録、120年間の観測史上で最低の水位となった琵琶湖等、近年にない水不足による生産調整や操業停止等が西日本で相つぎ、一層、景気的好転への足踏となりました。

反面、異常気温の暑さや熱帯夜対策として冷房関係の品物が売り上げに道を開け、減税、個人消費の拡大につながったともされ、景気が好転し始めたとの新聞紙上にも掲載されました。

また、関西国際空港が9月4日開港され、近畿に与える経済効果が民間研究所の発表ではフルに影響の95年度は一兆七千億円、近畿の経済成長率に

換算して実に1・56%の押し上げ効果で、人の流入による消費への波及効果が大きいとされています。

個人消費の上向き期待感と併せ、企業の設備投資にも回復の兆しが見えてきているようです。今までは小廻りの利く中小企業から先に活発化していましたが、今回は電機、自動車等大企業から先に回復する大企業先行型なるとの見方を一部の経済調査機関が発表しており、94年下期には大企業から設備投資は増加に転ずるとしています。

加えて、経済企画庁も一年先の景気動向を予測する新しい指標作成に乗り出すと発表しました。これは、不況や景気回復に対する判断が遅いとの批判によるもので、今回の不況が現実には91年5月から始まっていたのに、政府が公式に景気後退を認めないのは92年2月、そして昨年春には回復していないのに経済企画庁長官が「景気回復」を宣言する勇み足もあり、それを踏まえた今回の新指標作成となったと思われまます。

前回の好景気時代は、いざなぎ景気、やなぎ景気、バブル景気と新語が次々に生まれ、景気の強さを表わしました。が、今回の世界的不況の中では、複雑骨折と云われるまで長びき、やっと先の見える個人消費の拡大とリストラの終局、設備投資の増加の見込等で経済企画庁も「緩やかであるが景気は好転の局面にある」と発表されました。しかし採用増に転ずるにはまだまだ数年先のようにも思われ、民間研究所では、来年は今以上に失業者は増加するであろうとの考えも発表されています。そんな中で、本年度も就職試験に出発する日が近づきました。生徒たちもそれぞれ自分の目的達成の為に準備を整えてお

ります。

それぞれの地域に無事内定しました節には先輩方からの卒業生に対する温い御支援御指導をお願いいたします。なお表は昨年度迄の就職者数地域別表及び本年度受験希望企業先の地域別表、求人状況です。

(9月14日現在)

地区別就職先人数

年度	地区別				
	2	3	4	5	計
県内	77	81	78	82	
中・四国	35	32	36	30	
大 阪	11	17	19	21	
関 西	24	32	18	20	
東 海	19	23	21	17	
関 東	19	19	13	14	

地区別	年度	希望者数	
		5年度就職	6年度就職
東 東	14	16	
東 海	17	14	
関 西	20	14	
大 阪	21	15	
中・四国	30	41	
県 内	82	72	

過去3年間の進路状況

年度	生徒数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
3年	223	19	81	123	0
4年	200	17	73	107	3
5年	196	12	82	102	0

本年度並びに過去2年間の求人状況(会社数)

年度	地域別					計
	大阪	関西	東海	関東	中・四国	
4年	231	240	179	443	186	1,403
5年	173	173	141	273	126	1,022
6年	119	98	72	164	85	636

H6年度は8月31日現在の状況

雑誌(思いつくままだに)

昭和31年電通卒

宮本恵美子

今年の夏の暑かった事。

異常と思えるこの暑さに、雨の降らない毎日。こんなに雨が降って欲しいと願った年もあまり記憶にないように思います。皆さんは、如何でしたか？

でも、高知は台風の通り道とか、結構雨にも恵まれているらしく、昨年に続き、今年も「お盆」を窪川で過しましたが、四日間毎日「スコール」のような雨、山すそに白いカーテンが下がり始めると「来た」とばかり家の中にかけて込む毎日でした。倉敷、広島と山火事が相次ぎ、水不足でなかく、鎮火出来ない報道に、移動出来るものならこの雨を……と思ったものです。

思えば、昨年も、台風の通り過ぎた直後の高知入り、瀬戸大橋を「もどり風」とやりに流されながら夜中、真暗な「横浪スカイライン」を飛ばして窪川へと帰ったものです。

翌々日「流星見物」疲れの、植田さん(事務局)に「須工」の案内をしていたとき、昼間の「横浪」を、二人でドライブした事を思い出します。

案内していた「須工」は立派な学校に生れ変わっていました。夏休み中もあり静かでしたが、あちらこちらと案内していたとき、造船科の、グラスファイバーを使って製作途中のレジャー船など、何だかワク／＼しながら見させていただきました。

その時代に合った教科を組込み、前進している学校をみて、新学期が始まり、活気のある学校ものぞいてみたかったなと思いつつながら校舎をバックに「記念撮影」をして、学校を後にしたものです。

思えば、卒業してから、何の役にも立たなかったOBですが、同窓会、その他で、先輩方や後輩の頑張って下さっているのを見ると、お手伝い出来ることが有れば少しは、と思う今日この頃です。



母校玄関前にて

関東支部だより

上海見てある記

昭和38年機械卒 大崎 鼎

中国、上海。東京から空路で約二時間半。隣の近い国だが見方を変えれば大変遠い国でもある。最近の中国ブームに乗って、この夏四度目の訪中をした。ヤジ馬根性で見た上海事情を報告したい。人口約千三百万人の上海を訪れてまず最初に驚く

ことは自転車の洪水と人の波である。乗用車の個人所有が禁じられていると聞くこの国の庶民の足は自転車とバスだ。その無数にある自転車と人の群れ。そして増えつつある車の数。さして広くない道。車以外にはほとんど守られない交通ルール。自転車と歩く人は信号無視はあたり前。所かまわず横断するから危なくてしかたない。いきおい車はピーピーブー。その音のうるさいこと。

タクシートの運転手いわく。「上海っ子は母親のお腹の中にいる時からこの音の中で育っているから平気さ」と。

国際商業都市を標榜する上海への第一歩はこうして始る。タクシーと言えば五年前には全然見かけなかったが今では運転席のまわりがグルッと透明なプラスチック板で囲われていた。百%近い車がそうになっていた。理由を聞いてみると「世の中が物騒になり、多勢の運転手が殺されたり強盗の被害に逢ったからだ」との事であった。

タクシーでもうひとつビックリした事は信号待ちで止まった時、いきなり運転手が弁当を取り出して昼飯を食べ始めた事である。一回の信号待ちでは食べきれないので、これを二・三回やり無事昼飯は終り。これにはあいた口がふさがらなかった。

ところで中国社会は改革開放のかけ声とともに大変動を起しているようだ。一、二例をあげてみたい。まず急に食費が増えた事だ。去年訪中した時にはあまり見当らなかつたがこの夏には多勢の食費に出会った。汚いなりをした子供が近寄ってきて黙って手を出す。「不要」と言ってもしつこい。その後には



はたいがい母親らしき女がいた。

常州という地方の駅の待合室で列車を待つていた四・五才位の男の子が走ってきてペタッと頭を床に着け土下座したのにはビックリした。

今一つの例は「夜の女」の舞台への登場である。ホテルの玄関近くにたむろする若い男が声をかけてきた。「先生、いい娘がいるよ。美人だよ。どうですか？」と日本語で話しかけてきたのだ。

よほど私が物好きな顔に見えたらしい。ともあれ中国では売春は御法度のはず。売った方も買った方も重罪とか。帰ってこれなくなったら大変と断つた。色々驚く事の多い中国でどうしてもガマンならぬことは「サービス精神の欠如」である。

上海の一流レストランに入った時、ボーイが丸いテーブルに茶碗や皿を置いてその後で箸をポンポンと投げて配つたのには驚いた。いらつしやいませも無ければ愛想も無し。あげくの果てには箸を投げて配るとは。何考えてんだろ、こいつはと思った。日本てなら即クビのはずだ。

又、デパートや商店の店員の無愛想なこと。仲間とペチャクチャおしゃべり。客が声をかけても知らん顔。二、三度声をかけてやっと寄ってきてブスッ。「おしゃべりのじやまをしないでよ」と言わんばかりの態度。そして商品を乱暴にショーケースの上に置く。ほほ笑みなんか一度も見た事がない。オーダーを言い方をすれば恐る恐るお客が買わせて頂くような有り様だ。

知り合いの中国人に言わせるとほとんどの店は国营企業だから働いても働らかなくても給料は同じで安いからこうなったとの事。親方日の丸の見本だ。

ところでJETRO上海事務所の駐在員の話が面白かった。

「あなたのような日本人が毎日たくさん来ます。上海で仕事をしたいと言ってますが、ここは日本から非常に近い国ですが見方を変えれば世界で一番遠い国かもしれません。契約をしても守られるとは限らないし、文句を言うところもない。今日OKの事が明日はダメということはずらです。良く調査して慎重に対応して下さい。」と教えてくれた。

色々トラブルも多く経済進出は慎重というアドバイスであった。

しかし日本を含む欧米諸国の中国への進出はすごい勢いのようだ。毎日の新聞に合弁だの事務所だのという言葉が載らない日は無いほどである。

こうした外資の進出は中国に高度成長の波をもたらしている。上海の街には高層ビルがニョキニョキ建ち地下鉄、高速道路工事も真盛りで活況を呈している。人々は拝金主義に陥り向銭看(金儲けに走る)に夢中になっている。それは元来マルクス主義が目ざした階級のない平等な社会との決別を意味する。国は社会主義でありながら「赤い資本主義」と呼ばれる所以でもある。

二十一世紀は中国の時代であると言われているが私もそう思う。但し政治・社会体制が安定を保ち、国民が勤勉になりサービス精神を修得できればという条件付きではあるが。

問題はポスト鄧小平だ。一説によれば危機的状況にある都市と農村の格差の広がりや貧富の差の拡大が中国に大混乱を引き起すかもしれない。そうだと

そうなると思えば日本を含む周辺諸国への影響は甚大である。特に難民問題等で日本は頭を悩ますことになるかもしれない。

ある。特に難民問題等で日本は頭を悩ますことになるかもしれない。

鄧小平亡き後も現体制が維持できるなら中国は世界の覇者となりうるかもしれないが裏返せば日本の産業の空洞化は促進され、その地位の低下は免れないだろう。

ともかく当分の間、矛盾を孕みつつ発展する中国から目を離すことはできない。中国に対する私の興味も尽きることはないのである。



関東支部 草津のつどい “H6.6.18” ホテル櫻井にて

昭和34年電気通信科卒

橋田 昌和

記録破りの猛暑と、濁水に見舞われた今年の夏でしたが、朝夕の涼しさに深まる秋を感じる季節となつて参りました。同窓の皆様にはお変わりもなくお過ごしでしょうか。

本部役員の方々や事務局の皆様には、同窓会と母校発展の為に日頃大変お世話になつてゐる事に対しまして、先ずもつてお礼を申し上げますと共に、御努力に深甚の敬意を表するものであります。

扱て、当京滋支部は、昨年の濱川先輩の支部便りにもありましたように、平成4年4月正式に発足を致しました。それ迄は近畿支部に属していたわけですが、余りにも範囲が広過ぎて活動にも制約が有る事から、廣瀬先輩（現支部長）や田村先輩を始めとする有志の方の努力で、支部結成の運びとなつたのです。会員数は約一五〇名で、現在は二年に一度の総会を、出来るだけ多くの会員が旧交を温められる場になつたと企画してゐる所です。

京滋二府県とは言え、会員が一堂に会するという事は、仲々にむずかしく、今の所はまだ、当支部の存在を広く会員各位に、認知して貰う為の期間と言えなくもありません。そんな中、今年の七月、例によつて廣瀬支部長の肝入りで、今年度総会の準備会を、京都で開催しました。役員同志久しぶりの顔合せとなり、種々意見交換等しながらの有意義な一夕でしたが、今年度支部総会は、十一月十三日（日）

に、琵琶湖畔の、アヤハ・レークサイド・ホテルで開催する事に決定しました。会員各位には、誘ひ合せて、多数参加してくれませう願つてゐます。

所で京滋支部発足以前には、前述のように近畿支部のお世話になつてゐたわけですが、山田・松村両先輩他、現大阪支部の皆様には、個人的にも大変お世話になつたものです。その後は御無沙汰ばかりで申し訳ありませんが、誌上をお借りして、御礼等々お詫び申し上げます。

少し話が変わりますが、当地に住んで今年で三十六年、今迄の人生の丁度々をこちらで過ごした事になりました。月並に言えば、第一の故郷が須崎で、第二の故郷が今居る滋賀県甲賀郡水口町という事になります。然し、啄木ではありませんが、やはり遠くに在つてこそその故郷で、新聞やTVで、高知県に関するニュースに触れると、他人事ではない懐かしさはどうする事も出来ません。今年、当地の夏祭り、思いがけず、よさこい鳴子踊りの太鼓の演奏を聴きました。又TVでは、土佐弁のシバテン談話を聴き、或いは新聞によつて、須崎の夏祭りや西日本一の火花が打ち上げられたという事も知りました。「やつてくれるねや」と、何となく心が躍つた事が忘れられません。

それにしても、時間的な距離は年々縮まつてゐるにも拘わらず、最近、年に一度の墓参りにも義理を欠くような始末とは、我ながらどうした事かと思つてしまひますが、それでも偶に帰省すると、たちまち三十年前に戻つて、自然に土佐のお国言葉になつてしまひますから不思議なものです。今はすつかり様変りした母校の跡地に立てば、昔、池の周りを

走つた校内駅伝を始め、様々な思い出が甦つて来ます。現在地での母校の発展は、勿論喜ばしい限りですが、それとは別に、糺の町に立つた時の感慨は、いつか野中先生も寄稿されていりましたように、そこで青春を過ごした者にしか判らない事かも知れませんが。

この辺で私の第二の故郷についても少し御紹介したいと思ひます。古来滋賀県は、都に接して、政治・経済或いは交通の要衝として、幾多の変遷を経て來ている所から種々の史跡に富んでいますが、私の住んでゐる水口町近辺もその例に洩れません。その一部を記しますと、先ず甲賀郡は甲賀忍びの里であり忍術屋敷も現存してゐます。町内の岡山城址や姫塚は、関ヶ原の役で敗れた西軍の将、長束正家と奥方、栄子姫の悲話を物語つてくれます。更に古くは万葉の時代、額田王の想聞歌とも言われる「あかねさす……」の和歌で知られる蒲生野は、車で三十分の所にありますし、聖武天皇の時代、一時都が置かれた紫香楽宮跡は、焼物で有名な信楽町にあり、これも車で三十分です。この他町内には、徳川將軍が上洛の際の宿所とした碧水城跡、小堀遠州作の枯山水で知られる大池寺、芭蕉の句碑が立つ大岡寺等々の史跡もあり、特に歴史に興味のある方には趣きの深い宿場町です。

取り止めもなく「ふる里雑感」とでも言うような事を書いてしまひました。当地の御紹介も多分に一面的なものになつてしまひましたが、最後に母校と同窓会並びに会員の皆様の日々の発展を祈念して、支部便りに代えさせて戴きます。

## 高知支部だより

高知支部・会計監査

昭和24年造船卒 森 久敬

台風余波で降雨のあった八月十三日、関西面壇で頭角を現わし、花の都、パリ、高原の都、ネパールなどでその名を知られる三十年機卒・野並允温君の高知大丸での第二回展の祝賀として、同期と吉岡豊延先輩たち二十数人の、和やかな宴が開かれ、ひとときの清涼感にひたつたことでした。当支部の活動は通算して六年間の空白がありました。しかし、アヒルの水掻きはやっておつたのです。榎並谷哲夫君の県土本部長就任。笹岡勲先輩の黄綬褒章受章。さらに榎並谷君の東京事務所長への栄転の祝賀にこそ寄せたの支部有志による会合は数多く行われ、会員間の意思の疎通を図る動きを続けておつたわけです。そして私はそれらの席上、造船科五十周年記念祝賀のPRをさして貰うたわけです。現在、本部長に寺田都雄先輩が就任されたこと聞きました。当支部も平成七年一月に総会を開き、新支部長を選任し、長い空白を埋めるべく努力を重ねて行くことになりました。竹内良一支部長の孤軍奮闘で心配やら、ご迷惑を掛けたこともありましたが、当支部は生きちやります。また宜しくおたのみします。



## 窪川支部だより

昭和21年機械一種卒 川添 泉

### 手造りでビールが出来る

平成六年六月十五日窪川町、窪川町地ビール推進協議会主催で、演題「地ビールの里・くぼかわ」を旨指して講演会が開催されました。

講演に参加して、私はビールに対する認識が一変しました。吾々一般大衆の考え方即ち認識では、ビールは酒税法もあり個人では製造出来ない、又製法は大変むづかしく日本の四大メーカー以外は製造出来ない物、と考えておりました。

日本の酒税法では、アルコール一%以上の酒類を造る場合は免許が必要となります。

免許の条件は年間六〇キロリットル以上生産する事、平成五年度迄は年間二千キロリットル、今回の規制緩和により六〇キロリットルとなった。

この様な、免許を必要とする大掛かりな規模でなく、アルコール度一パーセント以内の酵母の生きた健康飲料としての地ビールは一般家庭でごく簡単に造る事が出来るのであります。

私はこれまで、ビールは日本製品が世界で一番うま、中でもキリンの味が最高ものと思ひ愛飲して参りました。

今回、地ビールの話を聞いて七月から四万十の銘水をベースに手造りビールに着手、七月二十五日、待望の第一回ビールが完成しました。

期待と不安の中に試飲の結果、出来具合は上々でした。これまで飲みなれたと言うか、慣らされたと言

言いましたか、メーカー製品とは全く違った味の感触、田舎風味と言いますが、丸ろやかなこのあるビールが出来上がりました。

自來、私は初めて知つた自然の味、麦芽百パーセントプラスホップエキスで満たした、健康的かつ酵母が生きて活躍している此の手造りビールに愛着を持ち、趣味と実益をかねてこれからも、日本最後の清流四万十川のイメージにふさわしい、丸ろやかでおいしい地ビール造りを楽しんでゆきたいと考えております。

現在窪川町当局に於いても平成七年度を目的として、此の地ビールを山間地域振興、いわゆる町おこし事業の一環として、四万十ビールの名柄で生産販売の認可、実現に向かつて取り組みが進んでいる様であります。実現の暁には松葉川温泉、四万十ビールのイメージをベースに、美しい高原の町窪川町に御来町下さい。

尚、この地ビールに関して興味のお有りの方は御連絡賜りたいと思ひます。

### 事務局より

10月15日の臨時常任理事会にて、この度、退任された「清家寛前会長を讃える会」を開催することを決定しました。

前会長は、17年間会長を勤めて戴き、同窓会の礎を築いて下さいました。その御労苦を讃える為、沢山の出席を、お願いいたします。

### お知らせ

清家寛前会長を贈る会  
日時……平成七年五月四日  
会場……須崎市内を予定

詳細は、各支部に  
三月末日  
送ります。

## 開校記念行事



本年度は、恒例の開校記念式典を学校行事のため、止むを得ず5月25日より3日遅らして、5月28日(土)に開きました。

記念講演として、社会的課題となっている、知的障害者福祉に取り組まれている、松本郁夫氏にお願いしました。

松本氏は、昭和46年本校機械科卒業後、土木測量会社に就職しましたが、一生の仕事として福祉の仕事に従事するため、一念発起し予備校に通い、日本福祉大学を卒業しました。

現在は、太陽福祉農場を設立し知的障害者の自立を御指導されております。

本年度は、「はばたけ太陽の仲間たち」の題名でNHK教育テレビにも取上げられ、全国版で放送されましたので、ご承知の方も多いいと思います。

聴講した在校生は、障害者福祉や自分の一生の仕事とは何か等々考えてくれたと思います。

同窓生の皆様も、松本氏の御支援方、宜しくお願ひします。

## はばたけ、太陽の仲間たち

高知県の中央に位置する、土佐市の地に、昭和六十三年、五名の知的障害者と共に、「太陽福祉作業所」を開設いたしました。

それ以前は、私ども夫婦は養護学校の教師として一人ひとりの障害児の社会的自立に向けての指導を夢と熱意をもってとくりんできました。

しかし、高知県の人口が高知市だけに集中する土地柄もあり、なかなか知的障害者が働らきたくても就職できない状態が宿命のように、待ちかまえていました。

親は、わが子の卒業後の不安や、はるか数十年先の自分の老後の心配から、先を争うように収容施設に入れようとなりました。

地域の中に、障害者があたりまえに生活していく基盤が、あまりにも少なかったための現象でした。家族から離され、養護学校と収容施設の二ヶ所だけの集団生活の世界だけで、その人の人生が終ってしまふ。

教師として無力感でいっぱいでした。働らく所をさがして、それでも見つけることができなかったら、働らく所をつくり出していかねばなりません。自ら希望して進んだ教師の道でしたが、未練を残しながらも、やんだ末、私たちが卒業した教え

昭和46年機械卒

太陽福祉作業所 松本 郁夫

子と共に福祉作業所づくり人生をかけることにしました。

三十才からの再スタートでした。退職後、たちまち私ども家族とあずかっている障害者一人ひとりに苦しく、きびしい生活がおそいかかってきました。

始めから、バザーや内職といった形の福祉作業所はできるはずありません。融資を受けて、その当時に全国でも、まだめずらしかつたミツバの水耕栽培に挑戦しました。障害者にむつかしいところは全て機械が自動管理してくれます。

数年間、続いた赤字経営だった長いトンネルからもぬけ出し、障害者の数も十二名まで増えました。みんな生活がかかっています。

地域の中で、自ら生きぬいていかなければなりません。指導する私たちにも、スッシリと重い責任がかかってきました。

地域の中で生活していく力、生きぬいていく力を身につけさせていかなければなりません。経済競争のうずから、はじきとばされそうになることもしばしばありました。

何としても「太陽福祉作業所」は守り育てていかなければなりません。そのため一人ひとりの障害者の指導は、所長である妻と、もう一人の指導者にま

かせて、私は「太陽福祉農場」という独立した企業をおこすことをしました。

ミツバの水耕栽培、大型野さい乾燥機を使つての干し大根づくり、さしみコンニャクづくり、薬草づくり、といった生産から食品加工までを行い、それを市場やスーパーに卸していききました。一年間、とぎれることなく「太陽福祉作業所」に仕事を提供していく体制をととのえていかなければなりません。たとえ重い障害者であったとしても、知恵の伸びる歩みは亀だとしても……。

本物の労働の中で作業能力や生活能力は、目を見はるほどの成長がありました。子供達は、「このことを無意識のうちに理解しています。緊張した労働は、自らのくらしの中で生活リズムをつくり出し目標を持つたくらしかげました。

緊張した労働だからこそ、日曜、祭日は、せいっぱい受け身でなく、自ら計画して楽しく仲間と過ごすことも身につけていきました。

毎日、調理、洗たくも四年前から作業所内で行なつてきました。全て地域住民の一人として自立するための挑戦でした。

可能性に挑戦させず、やってあげることや、やつてもらうことが福祉ではありません。

地域の中で能力に応じてパーセント、力が出しされるくらしが保障され、それに見合った報酬が保障され、はばたいいてける環境が必要です。障害者を収容施設や福祉作業所の持ち物、財産にしてはなりません。

今年、協力してくれる企業の中に企業内作業所を

開設して、指導員を派遣し、少しでも保障された条件のよい環境の中に、力のついた障害者をはばたかせていっています。

また、交渉に交渉を重ね、ようやく二年後には県外から大手企業を南国市に誘致し、障害者多数雇用企業の会社を設立することも内定しております。工場の土地も確保され着実に準備が進められています。責任は増々のしかかってきております。

障害者の福祉は、制度に合わせていくといった感覚ではなく、高知の実情に合った形でつくり出していく、つまり福祉は創造なのです。その中で利用できる制度は利用し、不備な点は提言していくことも大切なことです。

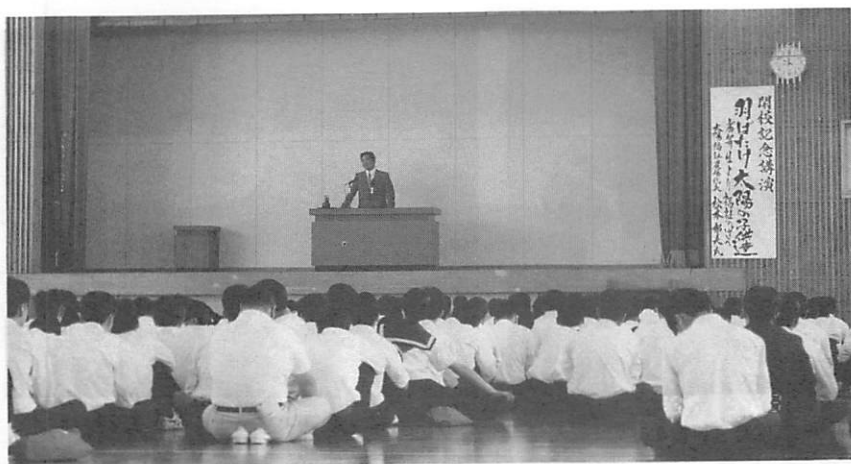
次から次と養護学校を卒業してくる障害者の働く環境は、まだく少なく、これからも、高知県下に第三、第四の「太陽福祉作業所」を設立していかなければなりません。

福祉は創造であり、自分自身との格闘でもありません。ひな鳥の巣だけをつくることで福祉を終らしてはなりません。

親鳥となり、はばたいいてける環境が必要なのです。そのことが教師を退職して十一年、私ども夫婦の使命であり、「太陽福祉作業所」の挑戦なのです。本来の意味で福祉を明るくのものにしていくことを世間実践を通して訴えていかなければなりません。実践者として、どこまでも障害者一人くを成長させることで勝負をすることが大切です。そうすること親も成長します。

成長した親が子育てから逃げず、真剣に向き合った時、地域の人達から本物の理解と応援がわきあが

ります。教育や福祉の仕事は、このように地味な実践をレングを積み重ねていくようにすることから始めなければなりません。



本年度の美術部は、近年にない密度の濃い芸術活動が続いている。その口火を切ったのが、市の文化会館から依頼された八月二十八日に行われた県教育委員会主催のチャリティーロックコンサートの舞台装飾だった。

仕事を引き受けたものの、正直言って最初は、絶対に美術部だけで制作することは不可能だと思っていた。というのは、この春からこの学校に勤務するようになって、部会すら開いたこともないような我が美術部は、いわゆる「幽霊部員」の集まりなのだ。この部員をいかにして学校に出て来らし制作させるかということが、一番の悩みの種だった。もう一人の美術を担当される山本先生に相談すると、直接生徒の家に手紙を送って知らせようと言われたので、自分が宛名書きをすることにした。その時初めて部員が十七名もいることを確認した。

舞台セットについて初の部会を開くこととなった日の朝、全体の半数でも部員が集まって、今から取り掛かれば、締め切り日には十分に間に合うだろうと高を括って家を出た。しかしその期待は見事に裏切られた。

実際に集まったのは四、五人で、しかも彼等は別の用事で学校に来て、それまでにはまだ少し時間的に余裕があるので様子を見に来たというのだ。それを聞いて自分は少し腹が立ったが、それ以上に、学校にも来ていない他の部員を情なく感じた。

結局その時来ていた部員の中でも、毎日出て来て

最後までやり通したのは二人だけで、残りは山本先生自らが顧問をされている自然研究同好会のメンバーで、舞台セットのメインになる岩の制作を担当した。本番当日、シンセサイザーが奏でる格好良い音色と共に暗幕が上がり、舞台中央にポツカリとライトアップされた発泡スチロールの岩を目の当たりにして、それまでの暑さと苦勞とが一辺に吹き飛んでやって良かったという爽快感と、締め切りに間に合っただけ良かったという安心感とでホッと胸をなで下ろしたことだった。

夏休みのほとんどを部活動に専念し、そのまま二学期へと入って間髪を入れずに、今度は市の交通安全協会から、秋の交通安全運動をアピールする看板を二枚作ってほしいという依頼を受けた。今回は三年生が就職活動で忙しいという事情もあり、一、二年生の交通委員と原案者をメインに制作をした。

多数の出品作の中から我が校は見事に企画賞を受賞した。十日間ほど国道沿いに他の作品と共に展示されていたが、我が校の作品がひととき目についたのは顧問としての欲目だろうか？

やれやれと思ったのも束の間で、目の前に控えた体育祭に使うアーチ作りが待っていた。ここまで来れば作業にも手慣れて、生徒達と楽しみながら短期間で制作することができた。

一つのことに向かって力を合わせて物を作る喜びを生徒にも感じてもらえたら良いと思うので、部員以外の人でも一緒に楽しくやってみませんか？そうすることで、それまで見えてなかった物でも自然に目に止まるようになって来ると思っています。

(顧問一年生の感想)



交通安全運動 H6.9



ロックコンサート H6.8.28  
[ロック(岩製作)]

# 平成6年度 役員名簿

H6.5.28現在

役職	氏名	卒コード	科別
相談役	田辺 博造	S 18-013	機械2種
相談役	清家 寛	S 18-010	機械2種
相談役	森岡 清	S 26-020	機 械
名誉会長	岡崎 紀秋		
会 長	寺田 郁雄	S 21-025	機械1種
副会長	竹内 良一	S 25-014	機 械
	下元 征夫	S 37-129	電気通信
	井上 耿介	S 39-004	機 械
常任理事	武内 徳雄	S 23-034	機械2種
	岡林 幸保	S 28-038	造 船
	高橋 三雄	S 32-019	機 械
	植田 幸子	S 32-095	電気通信
	山崎 吉広	S 33-087	造 船
	津野 隆	S 41-090	造 船
	竹崎 貞夫	S 43-040	機 械
	西山 庸一	S 48-090	造 船
	古谷 恭啓	S 49-104	造 船
	長山 孝弘	S 52-028	機 械
	岡崎 明	S 53-046	機 械
理 事	中平 萬年	S 18-017	機械2種
	田村 耕吉	S 18-014	機械2種
	川添 泉	S 21-012	機械1種
	中西 二郎	S 21-027	機械1種
	廣瀬 理	S 21-029	機械1種
	山田 豊	S 21-035	機械1種
	吉村 功	S 21-081	機械2種
	岡林 懸市	S 23-027	機械2種
	堅田 耕勇	S 25-006	機 械
	竹下 俊郎	S 28-014	機 械
	野瀬 公介	S 31-099	電気通信
	中西 安男	S 32-023	機 械
	江口 長靱	S 33-041	機 械
	松浦 政志	S 35-065	機 械
	山地 健三	S 39-180	化学工業
	長谷部俊夫	S 41-168	化学工業
	梅原 正博	S 47-116	化学工業
	坂本 定浩	S 54-009	機 械
監 事	坂本 臣三	S 25-009	機 械
	松浦 博	S 37-104	造 船
会 計	西森 昌身	S 34-121	電気通信

支部長 嶋多：松浦政志 窪川：川添 泉 須崎：寺田郁雄 高知：竹内良一  
 大阪：山田 豊 京滋：廣瀬 理 中京：岡林懸市 関東：野瀬公介

# 平成5年度決算報告書

取入	費目	金額(円)	備考
前年度繰越金		255,344	
新入生入会金		432,000	216名*2,000円
雑収入		31,793	
特別会計利息		964,100	
特別会計補助		620,000	
計		2,303,237	
支出	費目	金額(円)	備考
会議費		20,060	
事業費		1,192,189	開校記念品代 57,142 会報印刷代 567,324 会報送料 436,975 振替用紙封筒代 85,500 その他 45,248
通信費		30,498	
庶務費		0	
車庫費		110,353	
支部配分金		564,350	
雑費		29,339	
旅費		64,144	
予備費		0	
計		2,010,933	
収入		2,303,237	
支出		2,010,933	
残額		292,304円	

## <特別会計>

終身会費	費目	金額	備考
前年度未積立額		29,990,000	
本年度納入額		2,940,000	新卒(1,960,000) 旧卒(980,000)
一般会計補助		▲620,000	
計		32,310,000	

## 監査報告

諸般細及び証憑類等により監査の結果金額その他については相違なく、  
預金通帳・定期預金証書とも帳簿に管理適正に執行されている。

平成6年4月20日

監査 坂本 臣三 博  
" 松浦

# 平成6年度予算

支部配分金 会員500名未満200円  
会員500名以上150円

## (収入)

費目	金額	備考
前年度繰越金	292,304	
新入生入会金	330,000	165名*2,000円
特別会計利息	520,802	
雑収入	20,000	
特別会計より補助	1,550,000	
計	2,713,106	

## (支出)

費目	金額	備考
会議費	50,000	
事業費	1,539,075	開校記念品代 54,075 会報印刷代 670,000 8,300部 会報送料 600,000 7,800部 封筒代 70,000 6,000枚 振替用紙 37,000 4,000枚 領収書印刷 8,000 8冊 その他 100,000
通信費	40,000	
庶務費	10,000	
車庫費	200,000	
支部配分金	561,950	関東364 72,800 中京211 42,200 大阪467 93,400 京滋 80 16,000 茨城747 112,050 須崎1262 189,300 徳川 87 17,400 幡多 94 18,800
雑費	40,000	
旅費	221,000	
予備費	51,081	
合計	2,713,106	

# 平成6年度特別会計予算

費目	金額	備考
前年度未積立額	32,310,000	
5年度納入予定額	3,000,000	
計	35,310,000	
一般会計へ補助	1,550,000	
計	1,550,000	
平成6年度へ累積積立額	33,760,000	



# 終身会費納入済者名

(平成5年10月1日～平成6年9月30日)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

三谷元田  
安並山下  
山中吉川  
秋沢市川  
今橋氏原  
江淵大崎  
大岡本  
岡片岡  
塩垣下  
元高野  
高橋谷  
津野西  
内本  
弘富  
土松  
三本  
山山  
横吉  
岡渡

**化学工業科**  
浅野浩司  
石崎基次  
今治靖学  
今橋孝  
岩崎大  
太田真人  
大峯清  
小野建一  
堅田一  
園澤桑名  
小田康介  
坂本新吾  
高野弘充  
高橋淳史  
武市優人  
田所美智子  
谷岡恵介  
谷脇直美  
田嶋央典  
稲田幸一  
嶋島史典  
寺田剛  
戸田実  
中村秀彰  
永野北哲  
西森裕二  
野島真行  
長谷川明博  
浜田幸司  
藤田和弘  
間城幸作

**電気科**  
在木和正  
大崎楨久  
岡大徹  
岡千秋  
岡本祐二  
小倉貞寿  
小原智彦  
片岡和仁  
鎌倉雅利  
國本法康  
笹岡宏信  
鳴岡秀和  
高橋忍  
谷脇龍一  
田部龍一  
千頭真人  
津野眞  
橋田淳司  
前田泰良  
正木良治  
松浦敬三

濱本昌幸  
小澤春雄  
掛水健太郎  
片岡博信  
門田正義  
川崎大輔  
楠頼明  
楠目貴広  
笹岡和也  
下元和幸  
関高橋英徳  
高橋敬太  
高橋武森  
武田元  
田中克之  
田中宜好  
谷脇宏幸  
中村修久  
野村博久  
濱田伸也  
細谷武史  
堀内清久  
柳本秀樹  
松本泰昭  
山口剛史  
立仙一高

**造船科**  
井上純  
井上智博  
馬詰文隆  
大野忠正  
岡雅也  
岡林雅明  
岡村義明  
尾崎進也  
尾崎健二  
川淵誠也  
倉橋豪  
笹岡幸  
笹岡義和  
笹岡治彦  
笹岡誠幸  
竹内久人  
種田裕司  
日野史宣  
中越達男  
長澤英隆  
西澤幸範  
橋田修一  
日林雅也  
古谷英誠  
森田眞治  
山中陽昭  
横山忠昭  
和田伸也

占味秀夫  
**昭和54年**  
**電気科**  
明海地  
浩彦浩彦  
明神弘昭  
**昭和61年**  
**電気科**  
武石茂  
**平成6年**  
**機械科**  
秋本智弥  
市川大助  
市川秀樹  
井上秀陽  
今村健裕也  
本村幸人  
大崎博  
岡林邦彦  
片岡基和  
神山和起  
森藤一雄  
坂井洋和  
酒井幸一  
高橋智龍  
高橋朝男  
武田清高  
武吉鉄平  
谷岡智博  
田上秀弘  
寺田好英  
刈谷宏明  
南部誠也  
西森日浦  
弘田文之  
古谷冬樹  
町田陽祐  
松岡功治  
岡水勝也  
宮地康介  
明神陽  
森本慎司  
大野容盛  
山岡勇一  
吉橋圭  
井上秀男  
梅原竜二  
梅原智和  
竜二智和  
大崎悟生  
大原勝久  
岡村隆寛  
岡村秀行  
奥代秀行

**化学工業科**  
田井 峻雄  
**昭和47年**  
**電気科**  
西森 照泰  
**昭和49年**  
**機械科**  
上田正浩  
大野篤明  
河野和幸  
下元文雄  
吉村幸文  
**造船科**  
野中 佳男  
**電気科**  
久保博行  
市川博  
**昭和48年**  
**機械科**  
大野 賢二  
**造船科**  
箭野 誠二  
**化学工業科**  
丸岡 哲朗  
**電気科**  
岡田孝之  
福永文雄  
**昭和49年**  
**造船科**  
大崎 儀郎  
**電気科**  
片岡洋一  
**昭和50年**  
**化学工業科**  
中川 慶三  
**電気科**  
京本 徳男  
**昭和51年**  
**機械科**  
中村 裕之  
**電気科**  
田村 隆  
**昭和52年**  
**機械科**  
上田 雄三  
**電気科**

**化学工業科**  
山本 里美  
**昭和39年**  
**機械科**  
田村 淳一  
西岡 紘一  
**電気通信科**  
浅野 和雄  
**昭和40年**  
**機械科**  
青木 啓司  
市川 照彦  
刈谷 陽祐  
**化学工業科**  
山地 良一  
**昭和41年**  
**化学工業科**  
岡林 史也  
**電気科**  
梅原 孝行  
吉村 徳男  
**昭和42年**  
**電気科**  
南部 敏男  
西森 正純  
**昭和43年**  
**機械科**  
平井 忠男  
吉岡 賢一  
**電気科**  
西岡 鉄男  
**昭和44年**  
**機械科**  
佐々木政廣  
矢野 育夫  
**化学工業科**  
西森 精一  
**昭和45年**  
**機械科**  
谷脇 文明  
**電気科**  
勢田 博久  
立道 邦夫  
**昭和46年**  
**機械科**  
松本 郁夫

**昭和32年**  
**機械科**  
山中 正郎  
**造船科**  
松田 速雄  
**電気通信科**  
小島 春栄  
渡辺 啓子  
**昭和33年**  
**機械科**  
田中登志夫  
又川 晃  
**電気通信科**  
田所 道善  
**昭和34年**  
**機械科**  
岡村 勝彦  
土居 良彦  
**昭和35年**  
**機械科**  
若佐 久雄  
片岡 昭彦  
山本 英雄  
**造船科**  
石山 光男  
大下 誠輔  
福岡勝一郎  
**電気通信科**  
奴田原 隆  
**昭和36年**  
**機械科**  
福井 正  
**電気通信科**  
松枝 健一  
**昭和37年**  
**機械科**  
堅田 純生  
井上 嘉忠  
**電気通信科**  
大山 旺  
**化学工業科**  
佐竹 五男  
橋田南海男  
**昭和38年**  
**機械科**  
新谷 明弘

**昭和21年**  
**機械科**  
武倉 賢  
片岡 俊平  
坂山 勝義  
**昭和23年**  
**機械科**  
大崎 大太郎  
**昭和24年**  
**機械科**  
山中 莖栄  
**造船科**  
竹本 幸一  
巖本 利男  
**昭和25年**  
**造船科**  
山下登志夫  
**昭和26年**  
**機械科**  
浜口 裕之  
**昭和27年**  
**機械科**  
黒岩 昭八  
**昭和28年**  
**機械科**  
上田 武志  
橋本 給  
**昭和29年**  
**機械科**  
高橋 義孝  
**造船科**  
坂本 孝之  
高橋 忠幸  
山本 喜久雄  
**昭和30年**  
**機械科**  
西村 義清  
**電気通信科**  
藤井 良明  
能見 教男  
光森 克司  
**昭和31年**  
**機械科**  
榎並谷哲夫  
沖 宗一  
**電気通信科**  
中道 由郎

## 校歌

- 一、須崎工業高校の  
教の庭に身と心  
新天新地光明の  
輝やくもとに勇ましく  
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教  
太平洋の荒波は  
わが人生の活動か  
さらに心の平穩は  
波静かなる錦浦
- 三、工業報國理想とし  
自主独立の精神を  
いだき責務を怠らず  
真理と正義重んじて  
わが向上の道を遂う

## 各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十九頁の様式)申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書 一通につき三五〇円  
成績証明書 一通につき三五〇円  
単位修得証明書 一通につき三五〇円

送り先 〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話(〇八八九)四二一八六一

四二一八六二

FAX(〇八八九)四二一七一五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

## 編集後記

会員の皆様には御健勝のことと思います。

会報「にしきうら」第十九号をお送り致します。

各支部の役員、並びに会員の皆様へ原稿をお願いしましたところ、御多忙な中を心よく御寄稿頂き、お陰様で「第十九号」を発行することが出来ました。

夫々に近況の窺われる記事をお寄せ頂き、誠に有難うございました。お礼申し上げます。

母校に事務局がある関係で、学校関連の内容が多くなってしまふことを反省しております。今後とも皆様の近況やお気づきの点がありましたらお知らせ下さい。

尚、終身会費の納入者氏名は平5・10・1から平6・9・30間に納入された方のみを掲載しました。

印刷にあたり須崎市内の笹岡印刷所さんにお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

会員の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

事務局編集委員

会報「にしきうら」第十九号

平成六年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所

同窓会事務局

有限会社 笹岡印刷所

印刷所 高知県須崎市東古市町二番十六号

TEL(〇八九)四二一〇二四四番